知って得する薬のはなし

家計を直撃する医療費は抑えたいが、健康や安心には変えられません。では、医療費を節約するのは無理なのでしょうか。今回は、薬を中心に、かしこい患者になる秘けつをご紹介します。

意外に知らない薬のあれこれ

症状が重いときなどは、病院や医院へ行きますが、ここでもらう薬は、医師が患者の症状や体質に合わせて必要な種類の薬を組み合わせたり、量を加減したりする、いわばオーダーメイドの薬です。医師の処方せんがなければ買えません。一般用医薬品と比べ、作用が強く、副作用が出ることもあるので、必ず医師・薬剤師の指示に従って服用しましょう。自分の判断で服用を中止したり、以前の飲み残しの薬を服用したりするのは禁物です。とくに、自分のために処方された薬をほかの人に服用させることは避けるようにしてください。

病院の薬

- 医師の処方せんが必要。薬剤の他に初診料や検査代などの医療費がかかる。
- 効き目が強い。

街の薬局の薬

- 自由に買える。
- 軽い症状に適している。

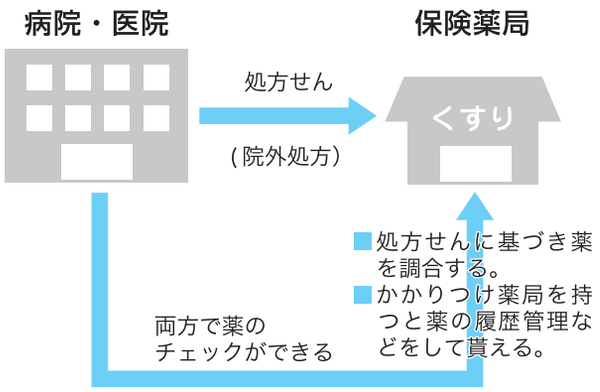
一方、風邪や腹痛などの病院へ行くほどでもない軽い症状のときは、病院や医院へ行かなくても薬局や薬店で買うことができる市販薬を活用することになります。

多くの人に対応できるように数種類の薬が組み合わされています。作用が穏やかで、安全性にも配慮されていますが、ある程度の期間服用しても効果がみられなかったり、症状が悪化したりした場合は、すぐにかかりつけ医や薬剤師に相談しましょう。

かかりつけ薬局を決めておこう

病院・医院で処方せんをもらい街の保険薬局で薬を受取ることを「院外処方」といいます。今では、この院外処方が50%を超えており（平成16年5月時点・(社)日本薬剤師会調査）、医薬分業が進んでいます。

このシステムは薬の服用に関する有効性、安全性を高めることが目的です。医師と薬剤師による処方薬の二重のチェック、患者がすでに服用している薬との相互作用のチェック、過剰投与の防止、そして薬剤師による服薬指導、など患者側に立ったメリットがあります。



しかし、このシステムをより有効に活用するためには「かかりつけ薬局」を決めておく必要があります。かかりつけを持っておくと、複数の病院・医院をを受診した場合でも、薬をまとめて処方し、さらにのみあわせの問題もチェックしてくれます。患者一人ひとりの服用履歴を管理（薬歴管理）してくれるので、より安全性が高まります。

また、医師と同様、薬剤師とのコミュニケーションも欠かせません。院外処方は、院内処方と比較して費用負担は重くなります。しかし、「安心」には変えられませんから、かかりつけ薬局を持つようにしましょう。

ポイント **かかりつけ薬局で安心を買いましょう。それが結局は、過剰な投薬を防ぐなどの医療費の節約にもつながります。**

病・医院の薬を価格の安い「ジェネリック医薬品」に変える

最近、テレビや新聞などで「ジェネリック医薬品」という言葉を目にすると思います。ジェネリック医薬品とは、製薬会社が持っている特許が切れた薬と同一の成分で作られた薬のこと。新薬として開発された薬を「先発医薬品」、ジェネリック医薬品を「後発医薬品」ともいいます。

特許が有効な期間中は、他の製薬会社は同じ成分の薬を作ることができませんが、有効期限がきれれば、開発コストもかかりませんから先発医薬品の２～８割も安い薬を作ることができます。この安い薬を医師が使えばいいのですが、ジェネリック医薬品についての情報不足などから、医師が使いたがらないのが現状です。

しかし、最近では厚生労働省を中心に、ジェネリック医薬品の安全性に関する情報が積極的に病院・医院へ提供されるようになっています。

特許を取った薬（先発薬）

- 開発費がかかり高価。
- 医師が使い慣れているため、特許の期限切れ後も使う医師が多い。

特許が切れた薬の類似品（ジェネリック医薬品、または後発医薬品）

- 開発費がかからない分、安価。
- 比較的、中小の製薬会社から発売されるため、薬に関する情報提供不足がち。

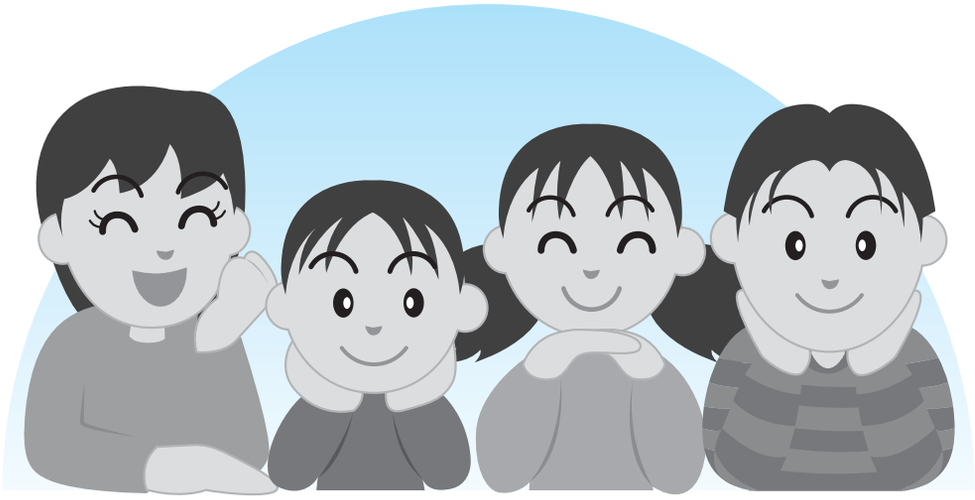
使用したいとき

医師に後発医薬品があるか積極的に聞くこと。

ジェネリック医薬品に切り換え、自己負担分の医療費が大幅に軽減されたという患者さんもいます。**ジェネリック医薬品を希望するときは、ジェネリック医薬品があるのか、そのことによって治療に変化はないかなどを医師や薬剤師に確認し、相談してみましょう。**

ポイント **後発の薬を使うことで医療費を節約できます。**

■ 日本ジェネリック医薬品研究会のシュミレーション

	先発品（新薬）	ジェネリック薬	差　額
老人保健（１割負担）	11,680 円	4,750 円	6,930 円
老人保健（２割負担）	23,360 円	9,490 円	13,870 円
健　　保（３割負担）	35,040 円	14,240 円	20,800 円

※ 高脂血症を主病とする患者さんが内服薬４剤を１年間服用した場合（高脂血症治療薬以外に、慢性気管支炎、脳梗塞後遺症、胃炎治療薬を服用と仮定）